

障害者の私と友達になりませんか

京都市民のみなさん、

私は重度在宅障害者です。いまの世の中に障害者と呼ばれている人の数は、一千万人とも二千万人とも言えています。国民の一割がなんらかの障害を持っています。今年は国際障害者年で、国際的にこのことにあります。障害者の問題を考えよう呼びかけられています。でも、わたしにくらしはかめりませんし、やめました。でも、わたしのくらしはかめりませんし、やめました。わたしの希望しているようにはなりません。私はいま、あなたがたと一緒に生き、笑い、考え、行動していきたいと思います。

なぜ、私がそんなことを思うのかといいますと、いまの世の中で重度障害者が生きていこうとしても、施設でしか生きられませんし、その施設もいやいや入れられる人がほとんどです。そういう施設のありかたはおかしいのではないかでしょうか。たしかに施設も必要でしょうが、今の施設といえば人里はなれたところとか、山の奥とかに多いのです。たとえ、街中にありますとも、健全者がからは見えないでしょうし、見えたとしても、そこは一部分にすぎないのです。

わたしたち障害者は、今の社会が健全者だけにあわせて作られていることを、いやというほど感じてきました。たとえば健全者の思い込みを施設を作られてきました。たとえば地下鉄や歩道橋の階段も健全者にあわせて作られてきました。あららしい地下鉄にはエレベーターがつかりましたね。大半の障害者が家や施設から出られないために、それを利用する機会はほとんどありません。

障害者は教育を受ける権利も奪われています。わたしも施設内学校と養護学校でしか教育を受けられませんでした。私は小さい時、地域の学校へ行けるものだと思っていましたし、健全児と一緒に勉強できるなって思ってました。

たことは残念です。私の友達の中には家や施設から出られずに学校へま、たくさん行けなかった人もいます。

わたしは、そんな世の中はどこかまちがっているのではないかと思います。私は人間らしく生きるために障害者が障害者としてありえなく生きることができる社会をつくるために、自立を決心しました。

自立といつても、今までのように家を出て働いて、経済的に独立するというやり方にこだわらないで、新しい自立の形をさがしています。そのためには、あなたの力と知恵が必要になります。

私と共に生きてみませんか。

おでんや下さい。手紙でもかまわぬです。
一度遊びに来て下さい。

